

公開授業週間（平成30年10月1日（月）～5日（金））の期間中、「研究授業」が実施されました。新学習指導要領が目指す「主体的・対話的で深い学び」、新テストを見据えた学力定着のための授業形態・技術を研究し、校内で共有し、今後の授業に活かすことが目的です。保護者の方も、授業を参観されました。

① 英語科（コミュニケーション英語Ⅱ）

2年次の「コミュニケーション英語Ⅱ」の授業であったが、授業のほとんどが英語だけで展開されていることに、まず驚かされた。生徒2人がペアになり、お互いに英語を話す時間、聞く時間が多く確保されていた。また、2単位という限られた授業時間を有効活用するために、板書する時間を短縮する必要があり、タブレットと大型モニターを使って授業を展開する工夫をされていたことが印象的であった。授業内容に関連する映像などもそれらを用いて生徒に提示することができ、教材のイメージをふくらませるのに大いに役立っていた。



② 英語科（総合的な学習の時間）

3年次の「総合的な学習の時間」の英語選択者の授業では、まず英文で書かれたクイズを読み、グループで意見を出し合いながら答えを導きだしました。後半は喫煙の危険性について書かれた英文を2人1組になり、英文とその和訳の掛け合いをすることで、読みと訳の確認と練習をおこないました。グループワーク、ペアワーク共に和やかな雰囲気の中、笑顔でコミュニケーションを取り合いながら、お互いに高め合っていく授業でした。



③ 国語科（現代文B）

2年次生のHR単位の「現代文」の授業で、「豊かさとながら」という環境問題をテーマにした評論が扱われました。

授業の前半部分での「カタル」と「アイスランド」の一文では、背景にある地理的知識を問い、生徒が答えられない場面では、身近な事例を引き合いに出すことで理解を促していく展開です。生徒たちは次第に話に引き込まれている様子で、複数の質問が自然に発せられていました。まさしく、対話を通した深い学びができていることを実感した授業でした。



④ 地歴公民科（日本史A）

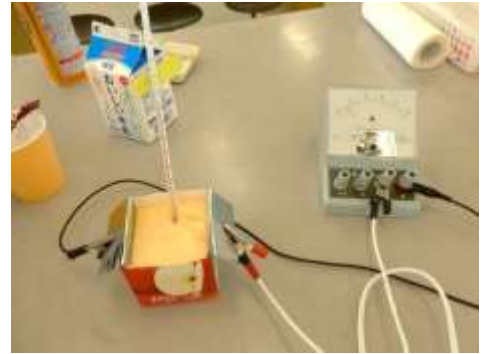
2年次対象の日本史の授業で、明治時代の経済がテーマでした。

貨幣制度の江戸時代からの変遷や、それに伴う日本の産業革命を扱っていました。そうした歴史の流れだけでなく、歴史の流れの中心にいた人物の考え方や、産業革命を支えた農民や工員の考えを考へる時間もとっていました。そうした人たちの思想や行動があって、現在の日本がつくられてきたことを感じ取れた授業でした。



⑤ 理科（物理α）

2枚のステンレス板の間に電流を流し、ホットケーキミックスを使ってパンを焼く探求活動を行っていました。本時はその4回目の時間で、1回目に装置の製作、2回目以降はホットケーキミックスに加える材料の種類や量を変化させながら、ふくらみ方や焼け方の違い、流れる電流の大きさや温度変化などを測定していました。この電流を流してジュール熱でパンを焼く装置ではメイラード反応が起こらないため、ホットケーキの表面の色の変化が生じず、香ばしさが出ないことをフライパンを用いた対照実験で明らかにするなど大変興味深い内容でした。



⑥ 保健体育科（保健）

1年次対象の保健の授業で、「欲求と適応機制」の単元が扱われました。人間が抱く様々な欲求を自らの体験談を交えながら説明されました。

後半のグループワークは、「適応機制」である逃避、合理化、退行…などから一つテーマを選び、寸劇として演じ、これを見てどの機制かを答えてもらうという発表です。熱演にクラス全体が爆笑する場面もあり、授業者のねらいどおり、演じることで暗記すべきキーワードが強く印象付けられた授業でした。



⑦ 英語科（コミュニケーション英語Ⅱ）

1年次対象の「コミュニケーション英語」の授業で、アンパンマンが世の中に受け入れられていくまでを描いた文章を用いた授業でした。

プロジェクトで文章を黒板に写して文法の解説を行ったり、英文が流れていく映像を見ながら流れていく英文を訳していくなど、ICTを活用した授業でした。生徒同士での活動も多く、英語を使いこなせるようになるという目的に即した実践的な授業でした。



⑧ 数学科（数学B）

2年次文系対象の「数学B」の授業で、階差数列がテーマでした。前時までに基本の数列である等差、等比数列を学習しており、本時はその発展学習である。

これまでに学習した公式を、i-padで黒板のスクリーンに映し出していくことで確認したり、映った公式を活用しながら解説する工夫がなされ、非常に理解しやすい授業でした。また、各班に分かれてのグループワークも、互いに教え合う良い雰囲気ができていました。



⑨ 地歴公民科（世界史 B）

2年次生対象の「世界史 B」の授業で、生徒たちにとってあまりなじみのないイスラム教について知り、話し合いを通して異文化が共存できる社会をどのように創っていくかを具体的に考えさせる授業でした。

前半は 9.11 をきっかけに世界のイスラム教へのイメージが変わったこと、資料を見て地域ごとにイスラムの世界も多様であることに気づかせていました。無知からくる偏見をなくし、お互いを尊重することが大切だと知ることができていました。

後半のグループワークでは、日本人がイスラム教徒の人たちと共存できる社会づくりのためにどのような取り組みができるかについて話し合い、斬新な意見も発表されていました。



⑩ 地歴公民科（日本史 B）

2年次対象の「日本史 B」の授業で、院政期の文化がテーマでした。

院政期に浄土信仰が地方に伝播・普及していく過程を様々な時代背景とともにとらえ、理解していくように、発問に工夫がなされていました。それをグループワークで意見を出し合って考えることで、生徒たちもアクティブに活動しており、1時間があったという間に感じる授業でした。授業に関連する様々な雑談も大変おもしろく、私自身の日本史に対する興味関心が高まりました。



⑪ 理科（生物 β）

3年次対象の「生物」の授業で、遺伝がテーマでした。前半の講義では血液型やアルコールへの耐性などの身近なテーマを用いて、遺伝の伝わり方を説明していました。

授業の後半では問題演習が行われました。解けた人から先生のところに持っていくという形式で、正解者の人数をエクセルに記入し、プロジェクタで黒板に写して生徒全員に分かるようにしていました。生徒にとって良い刺激になるだけでなく、正解者数が増えると生徒同士での相談を可能にするなどペースメーカーの役割を役割も持たせており、とても効果的な方法だと思いました。



⑫ 地歴公民科（世界史 A）

2年次対象の「世界史 A」の授業は、パレスチナ問題がテーマでした。パレスチナ問題が起きている経緯や、ユダヤ人とアラブ人の歴史とそれぞれの主張、他国との関係などに焦点を当てた後、5月に米大使館が移転した際の新聞記事を読み、その内容と本時で学習した内容を元に問題の本質について考え、数十年、数百年前に起きた出来事が、現代社会に影響を与え続けているということを学びました。

大型モニターに地図や写真が映し出されることでイメージしやすくなり、遠くの、昔の出来事ではなく、身近な問題として考えることができていました。

